

# 既製コンクリート杭施工管理指針(案)の策定について

日建連は、平成二十七年十月二十二日の理事会において、今般の基礎ぐい工事の問題の再発防止を期し、元請けとしてのくい施工の管理体制や施工記録チェック上の管理指針を作成することを決定し、建築本部・建築生産委員会・施工部会にWGを設置して、国土交通省が設置された「基礎ぐい工事問題に関する対策委員会」におけるご検討にも沿いながら検討を進め、平成二十七年十二月二十二日の理事会において「既製コンクリート杭施工管理指針(案)」を決定いたしました。

管理指針(案)の内容は、第一章を、「既製コンクリート杭の施工に関わる各社の責務」としてあります。もとより、発注者に対しては元請が建物品質の総合的な責任を負うことは言うまでもありませんが、今回特に問題となった支持層の確認、根固め液の注入などの具体的な施工のプロセスごとに、元請、一次下請、二次下請、三

次下請の担当者それぞれが果たすべき責務を明確に示しました。

続いて、第二章が「設計事項の確認」です。必須事項として、地盤調査報告書に示される支持層の深度図や、それぞれの杭に關係する地層断面図等により、設計上の杭の先端位置を確認します。設計段階でのボーリング数が不足していると考えられる場合には、追加ボーリング調査を提案することも必須事項としてあります。

第三章が「施工計画段階の確認事項」です。特に、データの記録装置について、今回のデータ流用の元となった従来型のアナログ式記録装置の場合には専属の記録係を配置すること、または、新式の統合型自動記録システムを採用することとしています。また、不具合発生時の対応ルールを事前に構築しておくことも必須事項とします。

第四章が「施工段階の確認事項」です。杭工

事開始に先立ち、施工関係者全員が参画し、施工計画の周知会を実施いたします。また、杭の施工報告については、杭ごとに速やかに、毎日、元請が提出を受けて確認することとしています。

第五章が「業界をあげた技術学習会の定期開催」です。日建連が、杭業界と協働で、杭施工技术学習会を開催します。そこでは技術のみならず基礎ぐい工事に携わる者が持つべき倫理観、矜持についても取り上げてまいります。

最後の第六章が「ICT導入による施工管理の合理化」です。施工管理データを直送し、流用などができないシステムとすることも推奨しています。

会員各社は、この管理指針(案)をそれぞれ保有する施工基準に取り込み、実践してまいります。業界団体として、各個社として、発注者国民の皆さまの信頼を回復するべく、万全の体制で邁進してまいります。

## 新春懇談会を開催

日建連は一月二十二日、東京・大手町の経団連会館において新春懇談会を開催しました。有識者や報道関係者と日建連幹部が懇親を深めるため開催している新春懇談会も、今年で三〇回目となります。

はじめに中村満義会長が昨年策定した長期ビジョンについて「建設市場が好転しつつある今が、業界全体が足並みを揃えて構造改革を進める最大のチャンスであり、本年も引き続き、技能労働者の待遇改善などの取組みを積極的に展

開していく」と決意を述べました。

次いで、国土交通省の取組みに呼応して『建設キャリアアシテム』の構築や『現場の生産性の向上』などの革新的な分野についても、それぞれ新たに設置した推進本部を中心に、本格的に推進していく」とした上で、昨年の杭の基礎工事に関する問題に触れ「日建連としては元請の責任を果たすべく、昨年末に策定した『既製コンクリート杭施工管理指針(案)』の徹底を図り、国民の信頼回復に努めていく」と挨拶しました。

続いて宮下正裕副会長・広報委員長が、「建設業界が果たしている役割の重要性をしっかりと国民の皆様を理解してもらえよう建設業界からの発信・広報活動をより効果的に、より積極的に展開していきたい」「けんせつ小町委員会」を設け女性が働きやすい環境整備を推進していくとともに「けんせつ小町」の愛称とそのロゴマークを社会に対し幅広く普及・定着に向けて推進していく」との抱負を述べました。更に、「昨年夏休みを中心に、国土交通省に後援をいただき、女子小・中学生およびその保護者に対



会場には既製コンクリート杭施工管理指針(案)やけんせつ小町に関するパネルが設置された。

象とした現場見学会を一四の建築・土木の現場で実施したところ、いずれの現場も募集人数を上回る申し込みがあり、その様子がテレビや新聞で大きく取り上げられた」と昨年実施したけんせつ小町活躍現場見学会の成果を述べた後、乾杯の発声を行いました。

会場には、けんせつ小町活躍現場見学会の様子や昨年から日建連が取り組んできたけんせつ小町の普及に関する活動、第五六回BCS賞受賞作品を紹介したパネルを展示しました。出席者は、見学会で女子小学生が職人さんに指導されながらモルタルをこてで敷きならしている作業の様子や現場で働くけんせつ小町の写ったパネルなどに見入っていました。

当日は四二〇名以上の有識者や新聞・雑誌等のマスコミ関係者などにお越しいただき、盛況裏に終了しました。



今後の取組みについて語る中村会長。